

目録の種類と活用

[資料の整理 : 分類と目録]

図書館には大量の資料が所蔵・提供されています。(当館蔵書冊数は約 60 万冊です。)しかし、これらの資料を漫然と配置しておいたのでは、どんな資料を持ち、それがどこにおかれているのか分からず、せっかくの資料を有効に利用することができません。

そこで図書館では「分類」を行って資料の形態・性格・内容などにあわせてコレクションを構築するとともに、「目録」を作成して「書名」「著者名」などから個々の資料へのアクセスもできるよう工夫しています。

[分類]

分類とは「知識の体系化」を行うことで、そのためのルールを表した「分類表」をもちます。いくつか代表的な分類表がありますが、個々の図書館で分類表として何を使うかは自由です。このため、図書館によっては「独自分類表」を作成しています。

なお、分類表を利用して個々の資料に与えられた番号を「請求記号」といいます。資料は、通常、この「請求記号」に従って書架へ配架されます。

代表的な分類表

- ・日本十進分類法 (NDC) : 日本の大多数の図書館が採用しています。
- ・デューイの十進分類法 (DDC) : 外国の図書館で多く採用されています。

当館の主要なコレクションである「新分類図書」の分類表は、NDC (新訂7版) を基本とし、当館蔵書の特徴である「言語・文学」部分を独自に詳細展開している、独自分類表です。また、この他にも「旧分類図書」など、コレクション毎に異なる分類表を持っています。詳しくは「言語記号表」「分類表」「コレクション概要」を参照ください。

[目録]

資料を探すためには、欲しい資料に関する「キーワード」が必要になります。特定の資料を探すのであれば「書名」「著者名」「出版者」「出版年」など、特定の分野の資料を探すのであれば「主題 (テーマ)」「分類番号」がキーワードとなります。このキーワードを含む資料に関する情報を「書誌情報」といいます。これらの書誌情報から資料を探せる (= 検索できる) ように作成されたものが、「目録」です。目録にも、目的や機能に応じて様々な編成方法があります。詳しくは次項で説明しますが、当館の各コレクションの目録の種類については別紙の「コレクション概要」を参照ください。

どのような「分類表」を使用し、どのような「目録」を提供しているのかを知ることは、図書館活用の第一歩です。他の図書館を利用する場合も、まず、その図書館の「分類表」と「目録」に注目してみてください。

[目録の種類と活用]

では、目録について詳しく確認しましょう。まずは「目録の編成目的」です。

■ 収録対象内容から・・・

- ・蔵書目録 : もっとも一般的な「何を持っているか」を示すための目録です。
- ・主題別目録 : 特定のテーマに対して「どんな資料が存在するか」を示すための目録です。編成対象は複数館が主ですが、単館で編成することもあります。所蔵に関係なく、出版物全体 (書誌事項のみ) を対象として編成するものもあります。

■ 収録対象範囲から・・・

- ・個別目録 : 一つのコレクション、または一つの図書館の資料群を対象に作成する目録です。蔵書目録のほとんどがこれにあたります。
- ・総合目録 : 複数の図書館の蔵書をまとめて編成する目録です。最も有用なものは、国立情報学研究所の NACSIS Webcat (<http://webcat.nii.ac.jp/>) です。Z39.50 などの技術を利用して個別 OPAC の一括検索を実現し、結果として総合目録として機能するサービスも提供されています。

目的の次には、適切な編成方法が選択されます。種類と機能は以下のとおりです。

■ 形態から・・・

- ・カード目録 : 図書カードを使用して編成された目録で、図書館内のカードボックスに収納されます。
- ・冊子体目録 : 冊子の形式で編成された目録で、どこでも持ち運び可能です。
- ・OPAC (オンライン目録) : PC を利用してオンラインで使用できるように編成された目録で、現在では WWW 上で公開されるのが一般的です。

■ 機能から・・・

- ・分類目録 : 資料の請求記号順に編成された目録です。分類表を理解していれば、テーマに沿って所蔵資料を一覧することができます。
- ・書名、著者名目録 : 資料の書名あるいは著者名順に編成された目録です。特定の資料を検索する際に有効です。当館ではハングル・キリル表記の資料を除いて、和書・洋書に関わらず、アルファベット順に (非アルファベット言語は翻字して) 並べています。
- ・件名目録 : 資料のテーマ順に編成された目録です。当館ではカード・冊子体では編成していませんが、OPAC では機能の一つに含まれています。

目録の種類と活用

- **OPAC (オンライン目録)** : すべての書誌情報から、任意のキーワードで検索できるため、先に紹介したすべての目録の機能を実現します。また、論理演算も可能とする、最も利便性の高い目録です。

*論理演算：2つ以上のキーワードで掛け合わせ(積)せたり、足し合わせ(和)せて検索結果を抽出すること。

◆ 目録と所在情報

求める資料が見つかったとしても、どこに配架され、利用できる状態にあるのかどうか分からないければ、資料にたどり着けません。

所在情報の反映は図書館により様々ですが、当館では以下の方法をとっています。

- まず、図書館では、請求記号に従って**配架**(資料の配置先)のルールを決めています。詳しくは「**資料配置先一覧**」「**館内資料配置図**」を参照ください。

それを前提とし、

- **OPAC**では登録したすべての資料について配架先・貸出情報を明示。
- **カード目録**では「**資料配置先一覧**」に対して例外となる資料についてのみ分類カードに配架情報を記載(参考室、書庫、研究室など)。貸出情報はOPACで確認するか、カウンターへお尋ねください。
- **冊子体目録**には、どちらも明示されていません。配架先は「**資料配置先一覧**」を参照し、貸出情報はカード目録と同じ方法でご確認ください。

目録の特徴を理解することは、図書館活用の第2歩目です。求める資料を確実にかつ効率よく検索するために、特徴を理解した上で利用しましょう!

[当館で所蔵していない場合は?]

当館で所蔵していない場合は、以下の方法で他機関の所蔵を検索してみましょう。

■ 他機関で発行・作成している目録類を参照

冊子体 : 新収洋書総合目録, 機関別所蔵目録, 主題別所蔵目録

※資料は主に2F閲覧室に配置(「02*」番台から求めるテーマの分類を参照)

オンライン : NACSIS Webcat, 各大学のOPAC

※図書館ホームページの「情報検索のためのリンク集」も参照

■ 図書館カウンターに「参考調査依頼」を申し込む

何をどのように検索したのか、申し込みまでの履歴を必ず記入してください。

◎ 他機関で所蔵が確認できた場合は、以下のサービスを申し込むことができます。

図書館間相互利用サービス (紹介状, 文献複写, 相互貸借)

※いずれも処理に日数がかかります。複写と貸借は実費をいただきます。

[目録を上手に引くために]

では、実際に目録を引いてみる前に、コツを確認してみましょう。

検索の際には、常に以下のポイントを意識してください。

◆ 利用する目録の長所・欠点を把握していますか?

資料の探し方は、対象となる目録によって変わります。分類と著者名目録しか編成されていない目録にも関わらず、書名しか分からない場合は検索できません。また、著者名が分かっている場合、その論文が掲載されている雑誌や図書館の情報が分からなければ、これも検索不可能です。そのような場合は、まず検索可能な書誌事項の確定が必要になります。

◆ 書誌事項は正確ですか?

あなたが把握している書誌事項は正確ですか? 求める資料が見つからない場合、勘違いや記録ミスで書誌事項が間違っていることがあります。おかしいな? と思ったらもう一度典拠(書誌事項が載っていた資料)などを確認してください。

◎ 書誌事項の確認に有効なツール

※国立図書館や規模の大きな総合目録(国立国会図書館のOPACやNACSIS Webcat, LC(アメリカ議会図書館)のOPACなど)

※出版目録(日本書籍総目録, TRCの書籍検索, 各国のBooks in printなど)

※雑誌記事索引などの論文・記事索引

◆ 件名で検索する場合、キーワードは適切ですか?

件名は一般的なことばと必ずしも一致しません(例:コンピュータ=電子計算機) 利用する目録が採用している件名標目表(国会図書館やLCの件名標目表など)に従って検索しないと、求める資料が見つからない場合があります。

◆ OPACで検索する場合、検索方法を確認してありますか?

OPACによって検索方法は微妙に違います。どのOPACでも検索ガイドが参照できるはずですので、利用する前にかねらず確認してみましょう。

特にチェックする項目は以下のとおりです。

- 利用できる文字の種類(特に、非アルファベット言語の扱い)
- 濁音や撥音、長音、大文字と小文字、ウムラウト等の音標符号、”The”などのストップワード(検索対象外の単語)の取り扱い
- 検索項目の種類と意味、対象(書名、著者名、ヨミ、全項目、フルタイトルなど)
- 全文検索ですか? 部分一致検索(前方一致、後方一致、中間一致)ですか? 部分一致の場合、ワイルドカード(不確定部分を表す記号)には何を使いますか?(前方一致の例:「言語*」→言語、言語学、言語名などがヒット)
- 論理検索の方法(論理積:&, and、スペースなど/論理和:orなど)